

—人間守護の視点からみた各教科目の目的と方向性について—

郡山女子大家政 工藤澄子

○小 中 高等学校までの家庭科教育全体を通じて 人間の生活を守護する立場から各教科の内容の共通目標と特質を明確にし、その方向性について考察を加えてみた。

○家庭科教育の内容領域は衣食住保育(家族を含む)家庭経営となっている。これらを小中高各生徒の発達段階を勘案し、発達課題に応じて 易から難へ、具体から理論へ 体験から表現へと題材を配列し、実践と理論と関連づけた学習をさせる。最初は体験(生の内化)から経験を経て表現(生の外化)即ち創造性を培うことを最終的理想としている。さて、各領域はそれぞれ広い内容を持ち、専門的に細分化され、研究が進められる結果、ともすれば材料のみの研究や、製作技術の追求に熱心のあまり「樹を見て森を見ず」で生活全体や領域相互の連関性などをあまり問題視しなかつた憾みがある。家庭科教育においては生徒各自の発達段階を考慮した各領域毎の特質を把握させると同時に、一方では人間生活全体との連関性に視点をあてた理論構築が必須である。人間守護の立場から見た生活構造はどうなっているかを明らかにするとともに、ともすれば遊離しかかる各領域について、主題に則り体系化をはかるものである。

○1.衣食住その他は人間生活を守護する手段の物財で、使用価値をもちものとして捉える
 2.保育家族では「愛」を中心として家族相互が結びついているものとして捉える
 3.家庭経営では、1,2は人間を中心として分ちかたを結びついた総体として捉え、人間守護を目的とした経営加なされるべきであり、理論(科学)も技術も生活手段として究明する時家庭科教育学は人間生活の学としての意義を持ち家政学に位置づけられると思う